

新型コロナウイルス感染症の3つの顔に負けない市木小

4月22日は、参観日及びPTA総会の予定でしたが直前になって新型コロナウイルスの感染症の状況が厳しくなり、急きょ中止することとなりました。急な予定変更で御迷惑をおかけしましたが、なにとぞ御理解ください。

学校では、各学級で「新型コロナウイルス感染症の3つの顔を知って負けない仲間になろう」という学習をしました。様々な症状を引き起こす「病気」としての側面、



人々に「不安」をもたらすという側面、「偏見・差別」を生み出してしまうという側面の3つです。陽性者の存在が身近になってきている今、特に3つ目の「偏見・差別」を生まないよう、正しい知識を持って行動することがより一層大切になっています。

話は変わりますが、今回のPTA総会で、是非お話したかったことに、昨年度、本校を卒業し、現在、串間中学校に通っている8名の卒業生の活躍があります。8名のうち、3名が学級役員に立候補し、2名が学級委員長、1名が副委員長として新たな挑戦を始めているそうです。また、他にも「定期テストで学年〇番以内を目指す」と意気込んでいる卒業生等もいるそうです。どちらも、とても素晴らしいことだと思います。誰かから言われてするのではなく、自分で決めてする挑戦には、それをやろうとする「意志」というものが存在します。そして、その「意志」は、心の中に豊かなものが蓄えられていなければ、決して芽生えて来ないものだと思います。卒業生たちは、日々の小学校生活の中で経験した様々な挑戦を通して「心と心を感動でつなぐ素敵なもの」にたくさん出会い、それぞれの「感性のフィルター」を通して、豊かなものをたっぷり心の中に落とし込んできたのだなあと思えて実感しました。

昨年度の運動会での「ダンス」や学習発表会での「劇」、卒業式など、参観いただいた保護者の皆様にも「心と心を感動でつなぐ素敵なもの」を実感する瞬間があったのではないかと思います。あの瞬間は、この何気なくも地道な1日1日の小さな挑戦の積み重ねがあってこそそのもの、決してあの瞬間だけで成るものではありません。

今後とも、子どもたちの大切な1日1日を応援くださいますようお願いいたします。

残念ながら、遠足は中止になりましたが・・・。

5月2日は、遠足の予定でした。本来なら、石波海岸までバスで移動し、全校でのレクレーションや海岸清掃を行った後、バスで学校に戻って弁当を食べるという予定でした。しかし、4月下旬より、新型コロナウイルス感染症の状況が一段と厳しくなり、連休いっぱい、その影響が大きく残ることが予想されたため、バス内での「密状態」を避けること、また、「異学年による交流」を避けることを優先し、今回の遠足は中止することしました。ただし、楽しみが全くなくなってしまうのは、子どもたち



もかわいそうですので、1・2年生、3・4年生、5・6年生、それぞれ1時間ずつ「お楽しみの時間」を設けて、運動場や体育館で、サッカーやドッジボールなど、思い思いの活動をして楽しみました。また、お弁当を持参してもらい、いつもと違う昼食の時間を過ごしました。

状況が厳しくなれば、やりたいこともやれなくなります。みんなで協力して感染予防に取り組んでいきましょう。

新型コロナウイルス感染症に係る新たな対応について

4月22日付の串間市教育委員会教育長よりの文書でもお知らせいたしましたが、新型コロナウイルス感染症に係る対応が大きく変わりました。これは、感染者増による医療機関等の逼迫を受け、日南保健所の業務を、福祉施設や医療機関に重点化するための変更です。学校の教育活動（部活動を含む）内で陽性者が確認された事案については、保健所が示すマニュアルに基づき、学校が、濃厚接触者を特定し、教育委員会に報告、学校と教育委員会が連携して対応することとなります。

濃厚接触者となった者は、保健所が定めた期間は自宅待機し、登校や不要不急の外出を控えることとなります。文書中に「保健所でのPCR検査は実施されない」とあるように、あくまでも一定期間の自宅待機が基本であり、その上で、風邪症状が出た場合は、医療機関に自分で相談して受診することとなっています。

子どもや家族を守るために主体的に行動する事が求められています。学校としては、保健所のマニュアルにそって対応を進めてまいります。学校は、学校生活の中の行動しか指導することができません。子どもたちの24時間の生活全ての中から可能な限りリスクを排除することが大切です。勿論、くつろぎの場である家庭でマスクをつけて生活することなどできませんが、家族に陽性者が出れば、否応なくそうなります。学校と家庭とが心をつなぐにウイルスの侵入ルートを本気で絶たなければなりません。

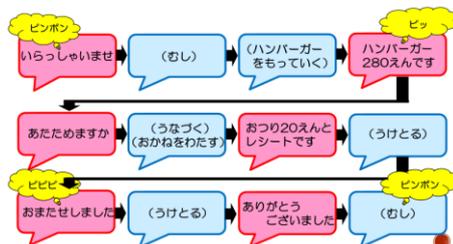
また、それでも、子どもに限らず家族の誰かに発熱や咳症状などの心配な状況が生じた場合には、学校には登校させない、医療機関等に相談するなど、家族を守るための第一歩を、勇気をもって踏み出してくださいませようよろしくお願いいたします。

「校長先生の挑戦1：あったらあいさつ」

5月12日に、今年度最初の全校朝会で、「校長先生の挑戦1：あったらあいさつ」というお話をしました。私は、毎朝、掃除をしながら登校する児童を迎えています。その際に、子どもたち全員に一日一回は挨拶したいと思っておりますが、本校には入口が正門と裏門の2カ所あり、10回以上行ったり来たりしても、なかなか、全員には挨拶することができません。そこで、下校時に「先生さようなら」を言って帰る子どもたちに、職員室廊下の窓から「さようなら」と声を掛けています。勿論、挨拶を返してくれる子どももいますが、中には、「さようならは、もう言いましたよ。」というような顔で、黙って帰ってしまう子どももいて、そんな時は、少し寂しい気持ちになります。

挨拶は、いくらしても損になるという事はないと思います。そこで、私は「あったらあいさつ」に挑戦しようと思います。「校長先生は、いつでも、どこでも、誰にでも、何度でも挨拶するので、挨拶を返してくださいね。」と子どもたちにお願ひしました。

コンビニ等で、「いらっしゃいませ。」と挨拶され、何らかの挨拶を返す大人がどれ程いるのでしょうか？最後まで一言も発せぬまま店を出る人も稀ではありません。客が挨拶するのは損なのではないでしょうか？店員は客に無視されて当然なのではないでしょうか？子どもたちは、知らず知らずのうちに「一方通行」の挨拶に慣れてしまっていないでしょうか？「出会った人と人の心を感動でつなぐ素敵なもの」それが挨拶だと思います。



6月の行事予定

1日	家庭教育学級（心肺蘇生）	15日	教育相談
3日	避難訓練（不審者対応）	22日	秋山小・大平小との交流
10日	プール開き	24日	思いやり委員会
13日	クラブ活動		

